

令和6年度

# 山岳スポーツセンター

維持管理事業実施状況総括書

公益財団法人 神奈川県公園協会

## I 維持管理事業計画の実施状況

項目	細項目	実施状況
I サービスの向上 1 指定管理にあたっての考え方、運営方針等	(1) 指定管理業務全体を通じた団体等の総合的な運営方針	・山岳スポーツセンターの設置目的及び山岳スポーツの拠点施設であることを把握して施設運営を行った。
	(2) 秦野戸川公園と山岳スポーツセンターの一体的な管理運営にあたっての基本的な考え方	・秦野戸川公園内にある3施設（秦野戸川公園、秦野ビジターセンター、山岳スポーツセンター）で利用促進、諸問題等の改善のため連携を図った。 ○3/1 三館合同イベント「みんなで登る・作る・学ぶ」 山岳SC「登る」・公園「作る」・秦野VC「学ぶ」 参加者14名 指導員14名 ○3/15 二館合同イベント「安全登山教室 丹沢登山はじめの一步」 参加者7名 講師4名
	(3) 利用者や地域住民、環境等に配慮した管理運営方針	・日頃から「公平」、「透明性」、「厳正」に対応した。 ・利用者満足度アンケートを実施し利用者ニーズの把握に努めた。 ・ゼロエミッション等環境に配慮した維持管理に努めた。
	(4) スポーツ・競技振興に関する考え方	・登山愛好者やクライミングウォール愛好者はもとより、何方にもきめ細かく対応しスポーツ振興に努めた。 ◇神奈川県山岳連盟の協力を得て底辺拡大のイベントを実施した。 ○4/21 秦野丹沢まつり 山開き体験クライミング 参加者54名 指導員9名 ○7/20～21 親子シャワークライミング 参加者11名 指導員4名 ○8/11 山の日 in HADANO2024 チャレンジトラバース 参加者30名 ○10/20 秦野戸川公園まつり チャレンジトラバース 参加者57名
	(5) 業務の一部を委託する場合の考え方、業務内容等	・高度な技術や専門的な資格を要する業務は専門業者に委託し、適正な維持管理に努めた。 *別紙委託業務一覧表参照
2 施設の維持管理	(1) 一体的な管理運営による効率的な維持管理	・植物管理等、直営業務を相互に兼務するなど、効率的な維持管理に努めた。 ○県スポーツ課発注工事 ・屋外リードクライミングウォール機械設備工事が7月1日から令和7年2月まで行われた。 ・宿泊棟2階トイレ改修工事が実施された。
	(2) 清掃、保守点検、受付等の維持管	(施設、保守管理) ・平成9年度の開館から27年が経過し施設の経年劣化による要補

	<p>理業務の実施方針</p>	<p>修箇所が増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物品管理に当っては、毎月1回チェックを行い適正管理に努めた。 (清掃管理)</li> <li>・秦野戸川公園との一体的な管理となり、委託による清掃管理を行うことにより常に清潔で快適な環境の維持に努め、適正な日常管理を行った。 (宿泊施設管理)</li> <li>・特に食堂、厨房の衛生面、トイレ、シャワー室のきめ細かな清掃に配慮し、清潔で安全な施設の維持に努めた。</li> <li>・館内害虫駆除 1回目 5/13 2回目 12/9</li> <li>・給水施設の点検及び水質検査 12/18、1/24 (植物管理)</li> <li>・中低木類の剪定は直営で行い環境の維持に努めた。</li> <li>・クライミングウォール前の観覧席の芝生養生(エアレーション・目土・施肥)は専門業者に発注し、特に重点的な維持管理を行い良好な状態の保持に努めた。</li> <li>・季節の草花を館内に植え維持管理して来館者が和めるように努めた。</li> </ul>
<p>3 利用促進のための取組み、利用者への対応、利用料金</p>	<p>(1) より多くの利用を図るために行う広報、PR 活動の内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「山岳スポーツセンター条例」及び「利用等に関する規則」を遵守し利用者の確保に努めた。</li> <li>・神奈川県、秦野市、県山岳連盟との四者会議及び公園、ビジターセンター、はだの丹沢クライミングパークとの四館会議を行い、事業の普及利用促進に努めた。</li> <li>・団体利用者間での事前調整により、予約が重複するなどのトラブルはなかった。</li> <li>・大倉バス停、秦野戸川公園パークセンター及び山岳スポーツセンター付近の案内掲示を更新するなどして利用者の拡大を図った。</li> <li>・平成21年度のホームページ開設から16年目となり、最新の情報や施設案内を掲示することによって、施設の利用が円滑に行われるよう努めた。</li> <li>・県のキャッシュレス化推進の取組の一環として、令和4年11月よりキャッシュレス化を導入し、利用者の利便性向上に努めた。</li> </ul>
	<p>(2) より多くの利用を図るために実施する登山・山岳競技等の振興に関する取組の実施方針、内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4/22～23 第29回クライミングコンペオール神奈川2024 兼①第78回国民スポーツ大会県代表選手候補選考会 兼②2024年度神奈川県ジュニア強化選手候補選考会 ①参加者66名 ②参加者54名</li> <li>○8/11 秦野市・県山岳連盟主催山の日イベント ①登山初級者講習 参加者14名 講師5名 ②チャレンジトラバース 参加者30名 スタッフ2名</li> </ul>

		<p>○県民スポーツ月間（10月）10～12日 施設無料開放日 利用者 20名</p> <p>○オリエンテーリング体験会 （県岳連創立70周年記念、公園協会50周年記念イベント） 参加者 15名</p> <p>○11/9 第2回神奈川スピードクライミング競技会 選手 43名 役員 25名</p> <p>○11/9 第38回かながわ県民登山 参加者 17名 役員 16名</p> <p>・県山岳連盟と連携を図り、登山活動を通して心身とも健全県民の育成を目標として、登山指導者育成、クライミング普及事業等各種円滑な事業実施に取り組んだ。</p> <p>○委託事業</p> <p>①リードクライミング教室：年4回 受講生 98名</p> <p>②スピードクライミング教室：年4回 受講生 28名</p> <p>③委託研修：年13回 参加者 722名</p> <p>○岳連自主事業</p> <p>①登山教室：年10回 参加者 98名</p> <p>②冬山教室：1回（全5回）参加者 13名</p> <p>※別紙令和6年度山岳SC利用計画兼山岳連盟行事表参照</p> <p>・3/15～16 パラクライミングジャパンシリーズ第2戦 参加者 52名 ガイド 27名 スタッフ 34名</p> <p>・4/16～18 県警山岳救助訓練6署（秦野 小田原 松田 伊勢原 厚木 津久井）</p> <p>・3/8 JMSCA次世代アスリート育成・強化拠点として、9月30日に認定され、3月8日に練習会を開催 参加者 5名 スタッフ 5名</p>
	<p>（3）利用料金の設定、減免の考え方</p>	<p>・県山岳スポーツセンター条例第13条に基づき、県の承認を得て行った。</p>
	<p>（4）接客、苦情処理、利用指導等の考え方</p>	<p>・利用者の声に耳を傾けつつホームページ、パンフレット、施設利用案内チラシで公正に説明し、利用者のご理解を頂きながら利用承認事務を行った。</p>
	<p>（5）サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み</p>	<p>・利用者満足度調査を実施した要望事項について対応した。 4～9月（上半期） 10～3月（下半期）</p> <p>・自動販売機は、屋外に移設し15年目となり、利用者への利便を図っている。</p> <p>・具体的な施設利用案内をパークセンター内、大倉バス停待合所付近、山岳スポーツセンター玄関前に掲示した。</p> <p>・ホームページで、施設予約状況を小まめに更新し利用者の利便を</p>

		<p>図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏日真夏日には、屋外クライミング施設の上部に日除け・雨よけテントを張り、大型扇風機を置いているが、新たに「ミスト」を設置することで、さらなる熱中症対策に努めました。</li> <li>・宿泊棟和室、洋室全室のカーテンを夏冬で交換し、利用者の快適利用を図った。</li> </ul>
4 事故防止等安全管理	(1) 通常の指定管理業務を行う中の事故防止等の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止、火災防止や犯罪発生防止のため職員不在の夜間休館日の機械警備委託を行い安全の確保に努めた。</li> <li>・「事故防止点検マニュアル」により日常点検を実施して事故防止に努めている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① ゴールデンウィーク期間中の緊急連絡体制</li> <li>② 年末年始緊急連絡体制</li> <li>③ 地震・風水害警報時の緊急体制</li> <li>④ 山岳スポーツセンター緊急連絡網</li> <li>⑤ 休日等県スポーツ課事故等体制表</li> </ul> </li> <li>・職員による施設の随時日常チェック実施</li> <li>・クライミング利用者への利用開始前の事故防止の周知</li> <li>・「施設点検チェックリスト」による日常管理実施。</li> </ul>
	(2) 事故、異常気象等の緊急事態が発生した場合の対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故や災害発生時等の緊急時の体制および初期対応に従い適切な備えを行った。</li> <li>・大雨（大雪）警報等発表時には、施設内外を巡回し、スポーツ課へ報告。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 事務室エアコン故障</li> <li>② リード壁オイル漏れ</li> <li>③ スピード壁オートビレイ機不具合</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">} 別紙事故報告書参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故等の発生なし。</li> </ul>
	(3) 急病人等が生じた場合の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級救命講習受講者の配置、AED 設置により急病人等の発生に備えた。</li> <li>・対応マニュアルにより対応</li> </ul>
	(4) 登山・山岳競技の危険性に鑑み、指定管理業務を行う際の事故防止等の安全確保に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が随時施設の巡視チェックを行い保全に努めた。</li> <li>・クライミングウォールの安全な利用のため、ホールドの設置状況、駆動装置の適正な稼働、スピード壁オートビレイ機の毎月点検等随時専門業者に委託する等して保全に努めた。</li> </ul>
	(5) 当該公園の「震災時対応の考え方」に示す初期対応等への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模地震発生時の参集体制と配備体制を適切に整えた。</li> <li>・緊急参集訓練を秦野戸川公園と合同で実施 5/24</li> </ul>

	(6) 大規模災害発生時の施設の特性、立地状況等に応じた災害対応の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防訓練 1 回目 9/5 2 回目 3/29</li> <li>・BCB（事業継続計画）策定</li> </ul>
5 地域と連携した魅力ある公園づくり	(1) 地域人材の活用、地域・関係機関との協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県委託事業の円滑な推進について県山岳連盟と調整を図った。</li> <li>・体験クライミングは、県山岳連盟の指導員の協力を得て行い利用拡大を図った。</li> </ul>
	(2) ボランティア団体等の連携、協働及び育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹沢山小屋組合と連携を密にして山岳情報の収集、意見交換を行い利用者の利便を図った。</li> </ul>
	(3) 周辺地域との交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳事故情報等情報収集 登山者遭難救助連絡会で得た情報を登山愛好者や登山教室で伝え安全登山の一助に努めた。</li> </ul>
	(4) 一体的な管理における地域企業等への一括的な業務委託による迅速、かつ、きめ細かいサービスの提供に向けた取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に精通している地域企業への優先発注のほか、地元非営利団体等への業務委託を行った。</li> </ul>
	(5) 企業の CSR 活動（社会的責任、社会貢献）や学校等との連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが将来の生き方を考え、自らの個性を生かし、自分に合った進路を選択できることを目標にキャリア教育の一環とした「職場体験学習」により、秦野市立南中学校第 2 学年 3 名を受け入れ、受付業務や宿泊対応としてリネンの準備を行うなど体験をした。</li> </ul>
	(6) 地域振興に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足等の利用による屋外 2m クライミングウォールの案内、秦野戸川公園と連携した運動等の利用促進等を行った。</li> </ul>
II 管理経費の節減等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な作業及び職員の努力で人件費の縮減に努めた。</li> <li>・宿泊棟全室のカーテンを厚生地製に交換する等光熱費の節減に努めた。</li> <li>・利用者の協力を得ながら節減に努めました。東日本大震災以後、特に節電に努めており、利用者にも協力を頂いている。</li> </ul>
III 団体の業務遂行能力 1 人的な能力、執行体制	(1) 指定期間を通じて両施設を効果的・効率的に指定管理を行うための人員配置等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤館長 1 名（兼務）、副館長 1 名、総括管理主任 1 名（兼務）、専門員（山岳施設担当） 1 名、パート職員（維持管理等） 3 名を配置。</li> <li>・毎月月末に翌月の勤務計画を作成し円滑な管理運営を行う体制づくりに努めた。</li> <li>・良好な管理運営に必要とする知識、技術の習得を図る研修、講習</li> </ul>

		<p>会を受講し職員の能力向上を図った。</p> <p>○実務担当者研修</p>
	(2) 業務の一部を委託する場合の管理・指導體制の状況	<p>・日報の提出や現地確認等により指導監督を行い、業務完了後は完了検査を行うなど、適切な指導監督に努めた。</p>
	(3) 指定期間を通じて安定して指定管理業務を行うための人材育成や職員採用の状況	<p>・山岳スポーツセンターの設置目的を把握し知識及び経験を有する職員を確保した。</p> <p>・山岳関係の知識や経験豊富な人材に加えて施設管理能力がある優秀な人材が確保できた。また、27年度から秦野戸川公園との一体的な管理となり施設維持管理面での適正な対応ができた。</p>
2 コンプライアンス、社会貢献	(1) 指定管理業務を実施するために必要な団体等の諸規程の整備、法令遵守の徹底に向けた取組の状況	<p>・「条例」「利用規則」「(公財)神奈川県公園協会規則」各種法令等に基づき施設の適正管理に努めた。</p> <p>・事務処理、会計、利用承認等関係規則を遵守して執行した。</p>
	(2) 個人情報の保護についての考え方・方針及び個人情報の取扱いの状況	<p>・「公益財団法人神奈川県公園協会個人情報保護規定」により適正に取り扱いをした。</p> <p>・パソコンはパスワード設定し使用管理している。</p> <p>・データバックアップのため新たにサーバーを設置した。</p> <p>・書面、データ類は鍵の施錠できるキャビネットに保管。</p>
	(3) 指定管理業務を行う際の環境の配慮の状況	<p>・平成15年度から「環境指針」を定め環境への負荷の軽減に取り組んでいる。</p> <p>・ゼロエミッションへの取組として、コピー用紙の裏面再利用、環境製品の使用、電気、ガス、水道、灯油等の使用削減に努めている。</p> <p>・剪定樹木、落葉等の施設内処理を実施。環境に配慮したサイクル利用を図っている。</p> <p>・地球規模の環境対策が求められており、職員一人一人が自然に親しみながら共生できる社会を目指す意識の継続を図っている。</p>

## II まとめ

第4期指定管理業務3年目。今年度は、リードウォール設備工事が令和6年7月1日から令和7年2月28日まで行われたことにより、リードクライミング教室や登山教室、山岳会の練習・大会、高校部活動等での利用が中止または実施回数を減らすなどの対応となった。

秦野丹沢まつり山開き、山の日 in HADANO、秦野戸川公園まつり、三館合同イベントでの体験クライミング等の実施や国民スポーツ大会代表選手候補選考会及びジュニア強化選手候補選考会を兼ねたクライミングコンペオール神奈川、高校総体クライミング大会（リード・スピード・ボルダー）等開催されました。また、第2回神奈川スピードクライミング競技会が行われ、県内外からの参加者により選手同士の交流の場として有意義な大会となりました。また、バラクライミングジャパンシリーズ第2戦が行われ、選手、スタッフ、観客が一体となった素晴らしい大会を開催することができました。さらに、はだの丹沢クライミングパークと山岳SCの施設においては、JMSCA（日本山岳スポーツクライミング協会）次世代アスリート育成プロジェクトとして、ユース代表のボルダー/リード育成・強化拠点となり練習会が行われた。

今後も利用者に安全・快適なサービスを提供し取り組んでいく。

### ●利用実績

宿泊については、かつて40名利用の団体が半分程度、20名の利用が10名の利用になるなどコロナ禍の影響により、利用形態が変化したとを感じる。したがって宿泊利用は伸びず、コロナ禍以前（H31）と比較し、約500人程度及び約1,000千円程度の収入減であった。全体の利用者数は、リード設備工事に伴う休止もあったことから9,700人と目標値の11,400人には到達できませんでした。また、利用収入は440千円減の4,221千円の利用でありました。しかしながら、県内外に山岳SCチラシの配布やSNSで情報を発信したことで、野球、サッカーの他、トレイルラン、空手、バレーボール、ワンダーフォーゲル、バスケットボールなど多種目の合宿として利用もあったので、継続的に利用していただけるよう今後も利用状況回復に向け努めていきたい。

### ●施設利用者の状況

(人)

項目	利用者数	全体比%	R5年度	増減
宿泊利用	1,598	16.5	1,637	△39
休憩利用	544	5.6	516	28
研修室利用	2,008	20.7	1,734	302
屋外クライミング	5,557	57.2	8,707	△3,452
総利用者	9,707	100	12,594	△2,887

### ●施設利用収入額の状況

(円)

項目	利用収入	全体比%	R5年度	増減
宿泊等利用	3,374,787	80.0	3,250,722	124,065
研修室利用	156,864	3.7	116,438	△40,426
屋外クライミング	690,100	16.3	1,293,900	△603,800
総徴収額	4,221,751	100	4,661,060	△439,309

### ●一般利用者の状況（人） 総数 4,991人

見学	トイレ	申込・下見	2mトラバース	その他	電話問い合わせ			計
					施設	山岳情報	観光他	
2,023	26	34	1,437	82	1,128	2	1	4,740

※参考（R5年度4,991人）